

六角堂池之坊の瓶花は、専慶坊より発り、専好法師中興す、家に其妙を得て山水幽谷を纒の瓶中に置み、四季折々の草木を自在にして麗相を立花とす、所謂十九箇条の秘伝ありて、海内都鄙遠近に門人多し。毎歳七夕の日には二星の手向として門子聚りて瓶花の精妙をあらはすなり、昔は此日帝へも調進あり、将家へ立花を献る事今に絶る事なし。〔二水記云、池坊専順法師は立花のみにあらず、連歌の達人なり、筑波集の作者に入れ、大永五年三月六日粟田青蓮院御門跡へ候じ、花の御会の時十瓶を指すと云々。池坊家蔵の書に、後柏原院御宇大永年中参内の旨、青蓮院尊鎮親王御直筆の御文出世号法輪院え下され候なり。これは池坊二十六代専順法師なりとぞ〕

其 文 云 (立文なり)

先刻は池房参内殊数瓶辛勞至候事外叡感甚候間一身之満足候仍来月節日已前又可参内之由已に堅可申聞之由被仰候条無相違上洛候様可被演説候て

八月十三日

花押

法輪院 候べく候

池坊華道秘伝十九箇条目錄

七一色 (桜、水仙、杜若、蓮、松、紅葉、菊) 三箇之前置 (松、藜蘆、齒朶)

三箇胴 (松、竹、牡丹) 三箇流枝 (中段流支、請流支、左流支)

段躑躅 だんつゝし
二真 ふたつしん
合真 あはせしん

小卷（伝受已上）大卷（伝授）生花七種（水仙、椿、芭蕉、蓮、牡丹、あさがほ薺、藜蘆）

池坊専順法師の所にて連歌の後、暮秋のこゝろを

老葉集 露にきえ木葉にちりて秋もなし

宗

祇